

公益財団法人 福岡アジア都市研究所 都市政策資料室

URC資料室だより NO.89 平成27年12月

平成28年1月 年末年始特大号

〒810-0001 福岡市中央区天神 1-10-1 福岡市役所北別館 6F tel:092-733-5707

福岡アジア都市研究所は、  
福岡市を中心に産学官が協力して  
設立した研究機関です

目次

- ◆年末のごあいさつ 理事長 安浦寛人・・・1
- ◆URC資料室ニュース
  - ①平成27年度 第3回ミニセミナー開催予告・・・2
  - ②蔵書点検ご協力へのお礼・・・2
- ◆URCニュース
  - ①平成27年度 第5回 都市セミナー開催予告・・・2
  - ②平成27年度 第4回 都市セミナー開催報告・・・2
  - ③平成27年度 市民研究員受入事業報告・・・3
  - ④「福岡の未来シナリオ」ワークショップ開催報告・・・4

- ⑤釜山の東明大学関係者がURCを訪問！・・・4
- ⑥研究紀要『都市政策研究』刊行報告、論文募集・・・5
- ◆FDCニュース 水辺活性化セミナー開催報告・・・5
- ◆所員雑感 その1「フクオカ・スタートアップ・セレクション」に参加して・・・5
- ◆所員雑感 その2：ビールと海鮮に魅せられた青島漫遊！・・・6
- ◆今月のおすすめ「インパウンド地方創生」・・・7
- ◆マスコミでみるURCの今・・・7
- ◆「資料速報 平成27年11~12月受入分」 別添

◆年末のごあいさつ

理事長 安浦 寛人

早いもので今年も残すところあと僅かとなりました。賛助会員の皆様を始めとする関係者各位に紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

今年1年国内外でいろいろなことがありましたが、個人的に印象に残っていることの一つとして、9月から10月にかけてロンドンで開催されたラグビー・ワールドカップにおける日本チームの大健闘が挙げられます。日本チームが強豪で知られ優勝候補の一角でもあった南アフリカチームに勝つという大偉業を成し遂げました。これは現地メディアも「ワールドカップ史上最大の衝撃」と紹介したほどの出来事です。さらにサモア、アメリカにも勝ち予選で3勝しましたが、惜しくも目標としていた決勝トーナメントには進めませんでした。それでもこの偉業が色あせることはなく、2019年に日本で開催される同大会への機運を一気に高めることになっています。因みに、日本チームの中で独特のプレースキックのポーズで一躍有名になり、来年からラグビーの世界最高峰のリーグに参加することになった五郎丸選手は福岡市の出身です。

この日本チームを指揮したのが、エディジョーンズというヘッドコーチです。

彼について報道された記事を見ると、勝つためのロジック、綿密なプランニングを立て、そしてその実践を確固たる信念でやり遂げることができた結果が、ワールドカップにおける快進撃につながったようです。

話は変わりますが、我が国では、現在、東京一極集中を是正し地方が元気になる地方創生を推進しています。これまで長い間、我が国の社会経済システムのあり様として、東京への一極集中が進み、地方が徐々に自立性を喪失してきました。すでに強固なものとなっているこのシステムの流れを変えるのは非常に困難が予想されます。

福岡市は、国家戦略特区の指定などもあり全国で一番元気な都市とよく人から聞かされ、私もそのように実感しています。一方で、現実には福岡の大学を卒業する人材の多くが就職

のため東京に転出しており、東京一極集中の流れを福岡だけはくいとめるというのは大変なことです。

しかし、このラグビー・ワールドカップの日本チームの劇的勝利をみて、やればできるという積極思考で取り組んでいくことの重要性を痛感しました。日本の九州にはアジアの拠点都市福岡があるという強い自負と信念を持ってまちづくりを進めていけば、発展の大きなポテンシャルを有する福岡市が、東京一極集中に流されない日本の地方都市の代表として成長を続け、九州の大都市という位置づけだけではなく、我が国全体の地方創生のモデルになれると思っています。

大きなまちづくりには大変な年月、労力を要します。次元は違いますが、将来の目標を立て、綿密にプランを構築し、信念をもって実践を継続することにより目標を実現に近づけた日本チームの成功をロールモデルに、福岡の未来のまちづくりをしっかりとしたプランをもって自らの手で切り開いていくことが大切だと思っています。

当研究所では、本年度の研究テーマに、「グローバル都市福岡の国際競争力の向上」というテーマで、「福岡の未来シナリオ」を考えるための調査研究を進めています。まだ、研究中の段階ですが、報告書ができましたらぜひみなさまにもご一読いただき、福岡の未来について考えていただければと思います。

最後になりますが、皆様方におかれましてはくれぐれも健康に留意され、輝かしい新年をお迎えくださいますことを心より祈念申し上げます。



## ◆URC資料室ニュース

### ①ミニセミナー「日本の玄関、大陸の玄関：戦前福岡・釜山の都市政策」を開催します。

講師：Hannah Shepherd (ハナ・シェパード) 氏  
ハーバード大学 学術系大学院歴史学科 博士課程  
2015-2016 九州大学人文科学研究院 訪問研究員



当研究所のミッションである都市について理解を深めていただくために、ミニセミナーを開催します。今回の講師、ハナ・シェパードさんの研究対象は、戦前の福岡市と対馬海峡を挟んだ釜山市の都市化過程についてです。ミニ

セミナーでは、当時の資料に基づいて、主に人口の変遷や市民生活、都市政策に

ついてお話していただきます。

皆様のご参加をお待ちしております。

【日時】平成28年2月24日水曜日

18:30~20:00 (受付18:00~)

【会場】福岡アジア都市研究所 会議室  
(福岡市役所 北別館6階)

【主催】(公財)福岡アジア都市研究所【共催】福岡市

【お申し込み】電話かFAXまたは、E-mailで、住所・氏名・電話番号を添えてお申し込み下さい。

☎:092-733-5707、FAX:092-733-5680

e-mail:library@urc.or.jp

写真出典：Hannah Shepherd (ハナ・シェパード) さんご提供  
(山崎三枝 司書)

### ②蔵書点検へのご協力、誠にありがとうございました！

期間中は貸出し、閲覧などの資料室利用ができず、ご迷惑をおかけいたしました。おかげさまで無事終了いたしましたので御礼申し上げます。

## ◆URCニュース

### ①平成27年度 第5回都市セミナー (BODIKセミナー)「データドリブン社会の到来」を

#### 開催します。

ICT (情報通信技術) が著しく進歩し、リアルタイムに莫大なデータが蓄積されていく中で、データの利活用に関する取り組みも急速に進み、様々な領域において膨大に蓄積されたデータを利用し、現実の社会的課題を、コンピュータ上の仮想的な社会システムの中で解決するような動きも始まっています。

「ビッグデータ・オープンデータ研究会 in 九州 [BODIK]」 (=福岡市・ISIT・URC の3者で構成する研究会) では、データが社会を変えるイノベーションのキーファクターともいわれる現在の状況について、有識者の講演や事例報告によるセミナー「データドリブン社会の到来」を、本年度第5回目の都市セミナーとも位置づけて開催します。

全国各地でオープンデータの利活用促進に精力的に取り組まれている、(一社) オープン・コーポレイツ・ジャパン 常務理事の東 富彦 氏による基調講演のほか、

BODIK 代表で、オープンデータを活用し、特に自治体と連携してのイノベーション創出を推進中の村上 和彰氏、オープンイノベーションによる公共課題解決手法の研究等に取り組む天野 宏欣 URC フェローのお2人による事例報告を行ないます。

開催日時と会場は【平成28年2月22日 月曜日 13:30~15:30、アクロス福岡 1階 円形ホール】、内容や申込み方法等の詳細は、URC ホームページや、福岡市役所 1階情報プラザなどで配布中のチラシをご覧ください。お申し込みはメール又は FAX で 2月18日木曜日当研究所必着です。URC ホームページの申込みフォームからもお申込みいただけます。

都市/福岡やデータ利活用の将来などに関心をお持ちの皆様のご参加を、心よりお待ちしております！

(白浜康二 主任研究員)

### ②平成27年度 第4回都市セミナー「グローバル都市“FUKUOKA”の未来シナリオ」を

#### 開催しました。

11月18日水曜日 13:30 から、アクロス福岡において、本年度第4回目の都市セミナーを開催しました。

高い経済成長を続ける福岡市は、2035年まで人口の増加が見込まれ、今後も成長が期待される都市ですが、未来の社会状況は、現在と大きく違っている可能性もあ

ります。

その時、福岡市は世界の中でどのような都市であるべきなのか、というテーマについて、講演、研究報告、パネルディスカッションの3部構成で実施しました。



第1部では、ピケティ『21世紀の資本』などの翻訳や評論家としても活躍中の山形浩生氏により『都市のイノベーション：福岡への示唆』と題して講演していただ

### ③平成27年度 市民研究員受入事業報告

#### その1 『他都市視察（大牟田市）』を実施しました。

本年7月から、「アジアの先進モデル都市・福岡のまちづくり」をテーマに研究活動が続いている市民研究員6名が、他都市視察と中間報告会に臨みました。

11月4日水曜日に実施した他都市視察では、ユネスコの世界遺産登録や、新エネルギー施設の誘致が積極的に行われるなど、炭鉱閉山を経て、活気を取り戻すために、様々な取り組みをおこなっている大牟田市を訪ねました。

午前は大牟田市役所で世界遺産登録決定までのお話や、新エネルギー政策の展開について、各担当部署に講義をしていただきました。

午後は、エコタウンに移動し、RDF化施設、メガソ

#### その2 『市民研究員 中間報告会』を開催しました。

11月9日月曜日に、市民研究員が7月からこれまでの研究成果を発表する『中間報告会』を実施しました。

市民研究員として委嘱をして以降、10月まで8回の定例会を実施しました。その中で、各自がテーマを定め、調査研究を進めてきました。また、それぞれの研究員が、文献の調査や、アンケート調査の実施、関係者へのヒアリングを行うなど、独自の活動もおこなってきました。

中間報告会当日は、市民研究員OB・OGを中心に20名弱の方々にお集まりいただいた中、6名の研究員がそれぞれ10分程度のプレゼンを行いました。市民研究員からは「研究員OBの方からいただいたたくさ

- |                                  |          |
|----------------------------------|----------|
| 1. 「先進モデル都市の実現に関する考察と提言」         | …河野 弘史 氏 |
| 2. 「中国マーケットへの展開方策に関する実践的研究」      | …平野 紘輝 氏 |
| 3. 『ミュージシャンのまち 福岡』形成戦略」          | …大澤 理宗 氏 |
| 4. 「福岡市における新たな宿泊サービス機能の拡充に関する研究」 | …伊東 克啓 氏 |
| 5. 『市民の知』を支える市立図書館の在り方についての検討」   | …岩井 千華 氏 |

きました。

第2部では、弊所の久保上席主任研究員より、『福岡の2つの未来～成長する都市VS衰退する都市』のタイトルで本年度の総合研究の中間報告を行いました。

第3部では、都市の成長にキーとなる「産業」「イノベーション」「ICT」「ダイバーシティ」などの分野における専門の方々をお招きし、パネルディスカッションを行いました。

会場からの質問も多数いただき、参加者の熱心な様子が伝わってきました。また、アンケートでは「またじっくりと話を聞きたい」、「話が面白く、とても参考になった」など、概ね高評価をいただきました。今回の都市セミナーの内容や、いただいた意見を踏まえ、今後の総合研究に活かしたいと考えています。

写真出典：URC撮影（馬場孝徳 調整係長）

ーラー施設を視察しました。その後、世界遺産登録関係施設として、石炭産業科学館、三池港、宮原坑の見学を行いました。

福岡市とは街の成り立ちも人口規模も違う中で、福岡市にはない資源を活用し、新たな視点でまちづくりに挑戦している大牟田市の取り組みについて学ぶことができ、たいへん充実した1日となりました。



んのアドバイスやご指摘を参考に、今後の研究に活かしていきたい」、「研究の方向性を確認する良い機会となった」といった声が上がりました。

今後は、年度末の最終発表会及び市への提言に向け、引き続き活動を進めていきます。

なお、当日発表をおこなった研究員のテーマは以下のとおりです。



6. 「多文化共生の実現に向けた地域の取組み」

…岡田 憲二郎 氏

写真出典：URC撮影 (馬場孝徳 調整係長)

**④「福岡の未来シナリオ」ワークショップを開催しました！**

URC では、今年度の総合研究として「福岡の未来シナリオ」をテーマに研究を進めています。その研究活動の一環として、12月15日火曜日に「福岡の未来シナリオ」ワークショップを開催しました。

師走の慌ただしい時期の開催となりましたが、15名の方にご参加いただきました。11月18日に開催した第4回都市セミナー「グローバル都市“FUKUOKA”の未来シナリオ」に参加くださった方、市内でお仕事をされている方、市内の大学生・大学院生にお集まりいただきました。年代も経験も様々な参加者の皆さんが考える「こうあってほしい未来の福岡の姿」について、大いに語っていただく場となりました。

まず、ファシリテーターの山下永子氏(九州産業大学准教授)の進行により、「私が夢見る「2040年の福岡市都市像」とは」というテーマで皆さんに自由にアイデアを書き出して



作業を開始しました。

最初は皆さん緊張した面持ちでしたが、チームに分かれて作業を進めるうちに、徐々に和やかな雰囲気になってき

もらいました。そのアイデアの中から投票で選ばれた都市像ごとに5つのチームに分かれて作

ました。チーム間の移動も自由に行われ、時にはファシリテーターやURCのスタッフも作業に加わり、



様々な人が交流する中で、新たなアイデアが次々に生まれていきました。出てきたアイデアは付箋に書き出され、時系列や指標ごとに並べ替えながら、5つの「福岡の未来シナリオ」が形作られていきました。

最後に、各チームの代表者からシナリオについてプレゼンが行われました。完成した5つのシナリオは「芸能・芸術で世界的にブランディングされたまち」、「学生と企業がより親密になっている都市」、「新しい自分が生まれる“ひとりダイバーシティ”がつながりあう都市」、「経済だけに偏らない新たな幸せの価値観を見出す都市」、「世界で一番魅力的な町—Comfort+Compact+Engetic+Clean、これらの要素が魅力的かつ有能な人材を惹きつけることにより実現されるMostイノベティブシティー」です。どれも特色があり、新たな気づきも得られた、とても刺激的なワークショップとなりました。

今回のワークショップの成果は、今年度総合研究の最終報告書にも反映させる予定です。最終報告書は完成後、「資料室だより」にも掲載いたします。

写真出典：URC撮影 (中村由美 研究員)

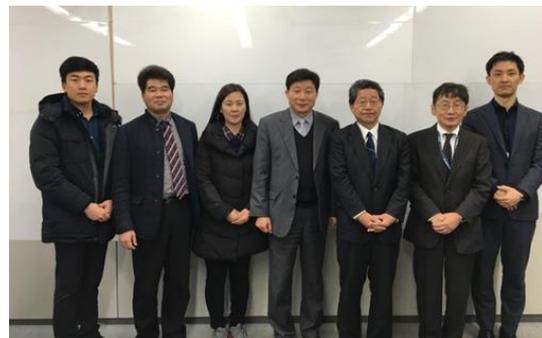
**⑤釜山の東明大学関係者がURCを訪問しました！**

12月16日水曜日釜山の東明(ドンミョン)大学産学連携センターの関係者4名がURCを訪問しました。東明大学は韓国国内で176の4年制大学のうち、学内の起業実績が10位内に入るほど、大学生の起業サークル活動が活発化されており、例えば2015年現在の東明大学における起業サークル及び参加大学生の数は、36チーム315人が活動しているとの事でした。

今回は「グローバル創業プログラムの発掘のための海外ベンチマーキング」を目的として、5泊6日という日程で福岡、岡山、大阪を順次に廻る計画のもと、初日は福岡のURCをはじめ、福岡スタート・アップカフェ、九州大学、福岡大学を訪れ、福岡市のスタート・アップ関連施設や取組みについて調査を行いました。今後東明大学におけるスタート・アップ関連企画において参考にする事が最終的な目的だそうです。

URCの猪上副理事長の歓迎挨拶から始まった会議では、近年福岡市で行われているスタート・アップ関連取組みの全体的な動きやその人材育成のための産学官協働体制などについての質疑応答が交わされました。東明

大学訪問団の代表を務めた金・サンギル教授(港湾ロジスティクス専攻)は、「グローバル創業・雇用創出特区に指定された福岡市のスタート・アップ関連の取組みについて理解できた有意義な時間でした。今後スタート・アップ関連人材育成の観点からの交流について工夫していきたい」と述べました。



平成25年度から2年連続で、「スタート・アップ都市形成に向けた政策課題に関する研究」を行ってきたURCとして

も、今回の訪問はやりがいを感じる良い機会となりました。

写真出典：URC撮影(柳基憲 研究主査)

**⑥研究紀要『都市政策研究』第17号を刊行しました／第18号の投稿論文を募集します。**



URC では、平成 27 年 12 月に研究紀要『都市政策研究 第 17 号』を刊行しました。今号も様々な角度から、都市政策に関する気鋭の論文 7 本を掲載しています。URC ホームページでも PDF ファイルにて閲覧可能ですので、一度ご覧ください。

また、17 号を刊行したばかりですが、次号『都市政策研究 第 18 号』に掲載する投稿論文を募集し

ます。論文の内容は、都市政策に関連する研究成果をまとめたものとし、特に、福岡市の都市政策に対する何らかの提言的な内容を含むことが望ましく、新奇性または有用性

のあるもので、原則として未発表のものに限ります。

投稿期限は、査読を要する論文は平成 28 年 8 月 31 日水曜日、査読を要しない論文は平成 28 年 9 月 30 日金曜日です。投稿資格は、原則として URC 職員、福岡市職員、または賛助会員の方ですが、大学の研究者等で編集委員会が認める場合はこの限りではありません。

投稿規定の詳細は URC ホームページに掲載しています。投稿を検討・希望される場合は、URC まで事前にご連絡（ご相談）をお願いします。また、皆様のお知り合いやお近くに論文を發表されたい方や、興味がありそうな方がいらっしゃいましたら、ぜひご案内ください。

多くのご投稿をお待ちしております。

【専用メールアドレス：[toshiseisaku@urc.or.jp](mailto:toshiseisaku@urc.or.jp)】

(白浜康二 主任研究員)

**◆FDCニュース 福岡地域戦略推進協議会・都市再生部会「水辺活性化セミナー」開催**

福岡地域戦略推進協議会(FDC)は 12 月 15 日火曜日、「水辺活性セミナー」を開催しました。

FDC 都市再生部会は平成 27 年度、福岡市の都心拠点をつなぐリバーフロントのあり方について「水辺空間（リバーフロント）など拠点を繋ぐ空間の活性化に関する検討」としてまとめ上で、今年度「ミズベリング分科会」において具体的な事業化にむけたプロジェクト検討を進めており、今回その一環として実施したものです。



セミナーでは、いち早くリバーフロントの活性化を通じた街づくり、にぎわいづくりに取り組み大きな成果を出している「水都大阪」の泉英明プロデューサーの基調講演と福岡建

築ファウンデーションの松岡恭子氏を加えたトークセッションで構成し、泉氏は大阪での取



組み事例を紹介しながら「水辺のアクションが都市を変える」と訴えました。また松岡恭子氏は「都市の課題を水辺から解決していこう」と語り、来年度水上公園のオープンに合わせ、市民も一体となってリバーフロント活性化に取り組むべきだとの考えを示されました。

セミナーにはまちづくりに取り組む市民を含む約 80 人にご参加いただきました。

写真出典：FDC撮影（中満昭 ディレクター）

**◆所員雑感 その1 「フクオカ・スタートアップ・セレクション」に参加して**

去る 11 月 24 日にグランドハイアット福岡で開催された「フクオカ・タートアップ・セレクション」というイベントに参加しました。このイベントは、地場企業の新たな事業展開や成長・発展、地域経済の活性化のため、既存企業が創業で生まれたサービス、技術、アイデアを活用し、イノベーションを起こすためのスタートアップ企業とのマッチングを図るものです。プログラム最初の高島福岡市長のあいさつでは、アメリカのシアトル市を視察した時に、コンパクトで自然に恵まれ住みやすいところが福岡市と似ていながら、マイクロソフト、アマゾンなどの世界有数の大企業を有する都市であることに感銘を受けたことを機に、福岡市もシアトル市のようなまちづくりを目指していきたいという思いが語られ、そのためには、福岡の産業はもっと「スケール」を拡大し、「グローバル」化に取り組む必要があることを挙げられました。そして、行政の役割として、今回の地場企業とスタートアップ企業とのマッチングイベ

ントのように、福岡の地場企業が時代の変化を踏まえ、イノベーションを切り開いて、より付加価値を生み出すための企業努力を行うことを後押ししていきたいと、このイベントの趣旨を語られました。

次のキーノートスピーチでは、コマツ相談役の坂根正弘氏が講演されました。同氏は社長就任当初に赤字転落した会社をV字回復させ、国内外から高い評価を得る会社にまで育て上げた世界的に知られる経営者です。小松製作所当時にブルドーザーの設計技術者として入社した方ですが、講演の内容のはしばしから現場感覚を持たれた方との印象を受けました。非常にインパクトのある話が多かったのですが、個人的に印象に残った話を紹介しますと、同氏は、世界の基本的変化の方向性をみるときに、短期であれば10年、中期であれば30年～50年、長期であれば100年というように、通常の経営計画などの年数より1ケタ長いスパンでものごとを考えるようにしているということ



す。先が読めない時代といわれますが、例えば、世界の人口増加、新興国の著しい都市化の進展によるエネルギー消費量の増大、限られた化石燃料資源を考えると、今すぐには

ないが、近い将来、化石燃料は枯渇するというのは明らかで、今後そのような来るべき社会を踏まえ今どのように取組をしていくかということを考えるようにしているという

ことです。化石燃料の枯渇などの内容自体は当たり前と思われることですが、最近では、時代の変化が激しく、なかなか100年先をみてものごとを考えるとこのような話はあまり聞きません。過去から現在の流れでものごとを考えるだけではなく、そこに社会の未来のあり様も含めて、今を考えるとということに改めて気づかされました。

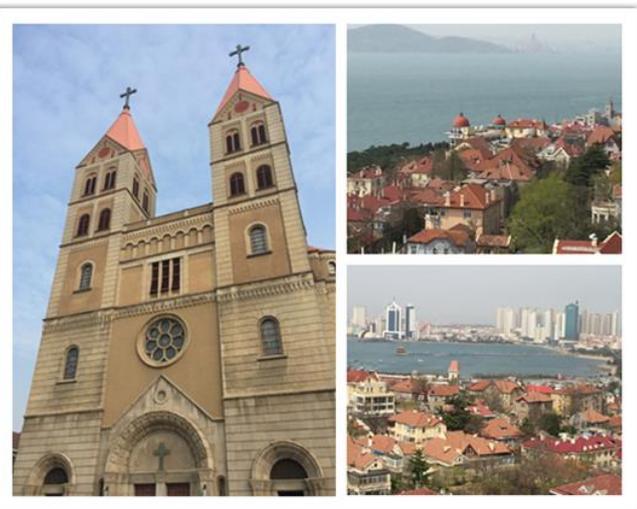
キーノートスピーチに引き続きパネルディスカッションや、プログラム第2部としてマッチングイベントが行われました。残念ながら、業務の都合で第2部には参加できませんでしたが、今回のイベントで、企業と企業との出会い、人と人との交流が地域に新しいイノベーションを起こす契機になることを期待しています。

写真出典：URC撮影（梶原信一 事務局長）

## ◆所員雑感 その2：ビールと海鮮に魅せられた青島漫遊

福岡から海を渡って中国山東省の青島に行きました。飛行機でたったの2時間です。

青空と紺碧の海、赤レンガと緑の樹木に囲まれた青島は中国有数の観光都市です。しかし私にとって、ドイツ情緒が漂う建物や街並みよりも、青島ビールと海鮮料理のほうがかもって魅力的です。回遊するなら、美味しい食べ物のあるまちなりに行きたいものです。



青島ビールは1903年ドイツ統治時代にドイツとイギリスの合弁で創設された中国初のビールメーカーで、今や中国を代表する有名ブランドのひとつです。1997年から日本のアサヒビールとも提携しています。青島ビールの工場は第1と第2ありますが、コクとうまみの強い第1工場の原漿ビールをお薦めします。味わいはアサヒの原酒仕立てのスーパードライプレミアムによく似ているから。

青島ビールの歴史を紹介するビール博物館は工場敷地内に建てられており、出来立ての生ビールは工場からパイプを通して併設ビヤホールに運ばれ、来場者がそこで試飲できる楽しみもあります。ビヤホールの食事メニューにはソーセージといったドイツ風の肉料理が多いですが、辛し入りアサリの中華炒めもあります。醤油に生姜葱と唐辛子を

加えただけですが、ビールによく合うということでビール街食堂の定番料理となっています。

長い海岸線を有する青島は豊富な海産物で有名です。近海ものの魚介類は300種以上もあり、ホタテ貝、エビ、ホラガイなどを使った青島の海鮮料理が、同

じ系列の山東料理(魯菜)のなかでも異彩を放つ存在です。

いま、青島市民の味を代表する料理として、この辺の漁村で食べられていた「大鍋海鮮蒸」が脚光を浴びています。調理方法は至ってシンプルです。かまどの上に大きな鉄釜を据えて、釜の中に好みに応じて地鶏や羊または魚のスープ(底鍋)を入れてから上にスチームプレートを置き、エビやカニ、タコ、かき等をどっさり入れて鍋蓋をかければおしまい。10分ほど蒸してから魚介類を食べ、残った底鍋のスープには海鮮汁が滴っているため旨みが増し、スープをそのまま飲んでもいいし、好きな具材を入れてしゃぶしゃぶしてもおいしいです。普通の鍋と蒸し器さえあれば、一般家庭でも簡単に作れます。

「大鍋海鮮蒸」によく似ているものに、山東省出身者の多い中国東北地方でよく食べられている「大鍋雑煮」と「かまど魚」があります。いずれも近年の「農家楽」(アグリツーリズム)ブームに乗じて知名度が上がっています。このような豪快で素朴な料理がにわかには人気を博していることは、高度成長を経験し、やや疲れ気味の沿海部都市住民の心情の変化と無関係ではないでしょう。青島は中国人が選んだ幸福都市No.1ということもなんとなく頷けます。

写真出典：URC撮影（唐寅 主任研究員）



## ◆今月のおすすめ 「インバウンド地方創生

## —真・観光立国へのシナリオ— 山崎朗・久保隆行 著

12月10日、久保隆行 首席主任研究員は、中央大学山崎朗先生（URC企画委員）と共著で『インバウンド地方創生～真・観光立国へのシナリオ』と題する電子書籍を株式会社ディスカヴァー・トゥエンティワンから出版されました。<http://goo.gl/wcAiuK>

訪日外国人は激増していますが、その恩恵を受けている地域はじつは日本のごく一部に過ぎません。

インバウンドを地方創生につなげるためのさまざまな方策について論じています。

印刷したものを当資料室にご恵贈いただきましたので、是非ご一読ください。

インバウンド地方創生  
—真・観光立国へのシナリオ—

山崎朗・久保隆行

一極集中する  
訪日外国人を  
地方が勝ち取る  
方策とは？

Discover

## ◆マスコミでみる「URC」の今！—最近2か月の情報を中心に—

## ◎新聞

(2015/12/19 東奥日報 朝刊 11p)

美術館 教育と連携を 十和田 第一線の8人集いシンポ  
市民研究員 OB 藤浩志さんが出演したシンポジウムの開催報告

(2015/12/16 建設工業新聞 新潟版)

アジア都市景観賞を受賞／南魚沼市の塩沢牧之通り  
URC が事務局を務めるアジア都市景観賞の受賞記事

(2015/12/13 西日本新聞 朝刊 3p)

提論—明日へ 社会を変えるイクボス 雇用制度の改革  
が必須/FDC シニアフェローの松田美幸さんが執筆

(2015/12/12 南日本新聞 朝刊 23p)

[編集局日誌]美術でイノベーション/文化部・右田雄二  
市民研究員 OB 藤浩志さんのコメントが紹介される。

(2015/12/10 大阪読売新聞 朝刊 31p)

寝台「瑞風」で地域活性 環境大生が PR ポスター  
当研究所 OB 新井直樹さんが指導する学生の成果報告

(2015/12/10 東京新聞 朝刊 22p)

次の使い手へ思い託す 物々交換 本や衣料で広がる  
“リレー”で生まれる出会い

市民研究員 OB 藤浩志さんが主宰するおもちゃ交換会  
「かえっこ」が紹介される。(☆印＝以下同じ)

(2015/12/10 中日新聞 朝刊 22p)☆

(2015/12/10 南日本新聞 朝刊 22p)

「多世代協働のまちを」日本版 CCRC で講演会  
野田順康特別研究員が鹿児島市で講演

(2015/12/9 東奥日報 朝刊 17p)

十和田 美術館を発信の拠点に 13日、現代美術館で  
シンポ

市民研究員 OB 藤浩志さんが出演するシンポジウムの開催予告

(2015/12/8 読売新聞 朝刊 32p)

ふるさとパワーUP↑空き店舗活用 にぎわい創出 姪の  
浜に誕生した交流拠点M'Sコミュニティ(福岡市)

当研究所 OB 大塚政徳さんが事務局を務める姪浜唐津  
街道まちづくり推進協議会の会長がコメント

(2015/12/7 河北新報社 朝刊 19p)

仕事場を共有 コワーキング可能性を探る 酒田で  
サミット/FDC 石丸修平事務局長が発表

(2015/12/7 日本経済新聞 朝刊 19p)

やさしい経済学 地方再生の行方 第2章 産業活性化  
の道 10 海外開拓の人材獲得を

当研究所 OB 山本匡毅さんが執筆(\*印＝以下同じ)

(2015/12/5 日本経済新聞 朝刊 32p)

九州経済 qBiz12/4@西日本新聞電子版 古ビルを活  
躍の場に

市民研究員 OB 吉原勝己さんが福岡ビルストック研究会  
理事長としてコメント

(2015/12/5 南日本新聞 朝刊 25p)

藤浩志展、明日まで/湧水町の霧島アートの森

市民研究員 OB 藤浩志さんの展覧会(@印＝以下同じ)  
終了予告

(2015/12/4 日本経済新聞 朝刊 27p)

やさしい経済学 地方再生の行方 第2章 産業活性化  
の道 9 観光競争力を生み出す \*

(2015/12/4 北海道新聞 4p)

札幌都心 官民戦略を\*地域共創研の小林氏講演:道政  
経懇

講演内容に FDC の活動が紹介される。

(2015/12/3 日本経済新聞 朝刊 27p)

やさしい経済学 地方再生の行方 第2章 産業活性化  
の道 8 「産業」を観光資源に \*

(2015/12/2 日本経済新聞 朝刊 28p)

やさしい経済学 地方再生の行方 第2章 産業活性化  
の道 7 航空分野へ参入事例も \*

(2015/12/1 日本経済新聞 朝刊 27p)

やさしい経済学 地方再生の行方 第2章 産業活性化  
の道 6 集積集める誘致策が鍵 \*

(2015/12/1 南日本新聞 朝刊 16p)

猫オブジェを屋外展示/湧水町の霧島アートの森@

(2015/11/30 日本経済新聞 朝刊 17p)

やさしい経済学 地方再生の行方 第2章 産業活性化  
の道 5 技術革新で新規分野へも \*

(2015/11/28 山形新聞 朝刊 9p)

山形市 県航空機産業参入拡大セミナー 県など主催、現  
状学ぶ

当研究所 OB 山本匡毅さんがセミナーで発表(◎印—以  
下関連記事)

(2015/11/28 河北新報 朝刊)

航空機産業 参入策探る/山形でセミナー/山形県など航空

- 機産業 参入拡大セミナー◎
- (2015/11/27 日本経済新聞 朝刊 27p)  
やさしい経済学 地方再生の行方 第2章 産業活性化の道 4 海外市場の開拓重要 \*
- (2015/11/27 南日本新聞 朝刊 13p)  
ごみ素材に作品づくり/社会見つめ表現生まれる=藤浩志さんの個展「霧島超藝術学校」・湧水町の霧島アートの森 @
- (2015/11/26 日本経済新聞 朝刊 28p)  
やさしい経済学 地方再生の行方 第2章 産業活性化の道 3 再評価される地場産業 \*
- (2015/11/25 日本経済新聞 朝刊 32p)  
やさしい経済学 地方再生の行方 第2章 産業活性化の道 2 再生始めた地域も登場 \*
- (2015/11/24 日本経済新聞 朝刊 11p)  
やさしい経済学 地方再生の行方 第2章 産業活性化の道 1 「域際収支」の黒字化担う \*
- (2015/11/23 西日本新聞 朝刊 18p)  
「子供が誇れる古里に」産学民3人、まちづくり議論 アイランドシティ支局 10周年記念フォーラム  
当研究所、FDC OB 後藤太一さんがフォーラムで発言
- (2015/11/23 毎日新聞 地方版 23p)  
霧島超藝術学校:自由な発想、未来問う“講義”の形、作品表現 鹿児島県出身、藤浩志さん/鹿児島 @
- (2015/11/19 西日本新聞 朝刊 27p)  
みそ蔵感謝コンサート  
当研究所OB大塚政徳さんが事務局長を務める「唐津街道姪浜まちづくり協議会」のイベント予告
- (2015/11/17 読売新聞 朝刊 29p)  
春吉橋の迂回路 水上広場へ架け替え工事始まる  
天神・中洲「新たなシンボルに」  
市民研究員 OB 吉原勝己さんが「嗜好実行委員会」の委員としてコメント
- (2015/11/13 南日本新聞 朝刊 1p)  
[南風録] 鹿児島市出身の現代美術家・藤浩志さんの美術展が霧島アートの森で開催中だ。「環境社会への転換」などをテーマに創作する。@
- (2015/11/13 山形新聞 朝刊 8p)  
山形市 27日「山形県航空機産業参入拡大セミナー」参加者を募集 ◎
- (2015/11/12 西日本新聞 朝刊 28p)  
九州経済 福岡の都市の成長を考えるセミナー/本年度第4回都市セミナーの開催予告(★印=以下同じ)
- (2015/11/11 西日本新聞 朝刊 30p)  
建物再生の技能紹介 リノベウィーク開始 福岡会場 12会場  
市民研究員 OB 吉原勝己さんが福岡ビルストック研究会理事長としてコメント
- (2015/11/7 西日本新聞 筑豊版 朝刊 26p)  
福岡 都市セミナー「グローバル都市“FUKUOKA”の未来シナリオ」★
- (2015/11/6 北國新聞 朝刊 24p)  
金沢 21世紀美術館がかかほく市高松中での出張授業 市民研究員 OB 藤浩志さんが出張授業を行う。
- (2015/11/6 西日本新聞 佐賀版 朝刊 29p)  
福岡都市圏 都市セミナー「グローバル都市“FUKUOKA”の未来シナリオ」★
- (2015/11/5 西日本新聞 朝刊 23p)  
都市セミナー「グローバル都市“FUKUOKA”の未来シナリオ」★
- (2015/10/30 南日本新聞 朝刊 12p)  
「霧島超(ちゅ〜)藝術学校」/かえっこしてつながる世界=12月6日まで湧水町・霧島アートの森 @
- ◎雑誌
- (2015/11/25 唐津街道姪浜まちづくり協議会かわら版 第九号)  
当研究所 OB 大塚政徳さんが事務局長を務める「唐津街道姪浜まちづくり協議会」が情報誌を発行
- (2015/11/15 九州経済調査月報 2015.12 通巻 845号) 2~10p「おたがいさまコミュニティ」形成手法の開発プロセス~協働で課題解決できるコミュニティ形成の実証実験から/小川全夫特別研究員が共著
- (2015/10/27 九州国際学生支援協会ニュースレター NO.83) 1~13p 6月例会【意見交換会】2015年6月24日(水) 柳基憲研究主査が「ICTを活用した外国人留学生の就職支援の可能性」を講演
- (2015/10/23 福岡県民 FUKUOKA BI:KI Vol.181) 2~3p 天神一丁目路地物語 変わらぬ味、いつもの顔。人の温かみ感じる都心の一角を歩く 都心に路地が(福岡路地研とゆく)ある福岡市民研究員 OG 井上光枝さん、OB 吉原勝己さん、吉良幸生さんが天神一丁目の路地を案内  
2008年度の市民研究員が中心となって作った「福岡路地市民研究会」が紹介される。
- (2015/10/15 九州経済調査月報 2015.11 通巻 844号) 2~7p「航空機産業の産業構造と九州・山口へのインプリケーション」  
当研究所 OB 山本匡毅さんが執筆
- (2015/10/1 月刊はかた 2015.10 Vol.323) 38~41p 福岡名店百選会◎対談 よか人 よか話 第81回 まちづくりと緑  
当研究所任意の外部研究会「福博：花まち研究会」委員の吉原春造さんと、市民研究員 OB 吉原勝己さんが対談
- (2015/9/25 議会月報 2015.9 第56巻第9号 通号第656号) 1~5p 議会のうごき 常任委員会 8月4日 1所管事務調査 公益財団法人福岡アジア都市研究所に関する事項について